## 鳥居信平という郷土の偉人

貴史
● 袋井市議会議員
たかし



を教えられた。

日本人技師である。 に位置する屏東県に独創的な地下ダムを造った 鳥居信平は八十年以上も前に、台湾の最南端

技術が買われたのであろう。

の注目を集めているという。

えていることなどから、今、台湾の専門家たち慮したものであり、現在も地域住民に恩恵を与慮したものであり、現在も地域住民に恩恵を与

げられるほどの人物だという。

また屏東県の中学校では、

副教材中で取り上

17 場合言では、現在り毎別点を

っている。農業土木における高い専門的知識とった糖業界を救うべく、一九一四年台湾へと渡東京帝大農科大学を卒業後、徳島県技師など出た。

でも大変な労力であったに違いない。多くあった。山奥に分け入って調査をするだけよしとしない原住民や伝染病などの諸問題が数よしとしない原住民や伝染病などの諸問題が数に治安も悪く、総督府に帰順することをこころ

れるほどの功績となるためには、鳥居をはじめでなく、原住民の尊敬を集め、後の世に感謝さそれが、画期的な灌漑設備を完成させただけ

かをうかがい知ることができるだろう。 とする日本人技師たちの高い人間性はもちろん 当時の日本がいかに台湾と接していた

れる台湾の人々にも感謝せずにはいられない。 これらは欧米列強の植民地政策とは明らかに またそれら日本人の功績を今なお、称えてく

の多くは 余談ながら、 平野氏の記事を読んだ袋井市民

線を画すものである。

「あの鳥居鉄也氏の父親か」 「このような人物が我が町にいたか」 という素直な感動と共に、

である。

鉄也氏は南極地域観測越冬隊長を二度も務め という事実に驚きを隠せないでいる。

られた人物で、地元では英雄視されてきた。 極に旅発つ鉄也氏を見送った記憶を持つ者

は、 ども抱えて無事帰還した時の郷土の興奮という かに思ったという。その人が、南極の石を山ほ 当時、月ほども遠い南の最果てを想像しな この人は生きては戻れないだろう、 と密

時、

ご冥福を心からお祈りしたい。

のは想像に難くない。

なる要素があるものか首をひねる者もいる。 さもあらんと得心する者があれば、このような ろう。息子である鉄也氏の偉業を重ねながら、 如現出した鳥居信平の功績は、眩しすぎるであ 人物を親子二代にわたって輩出した土壌にいか 当時の熱が未だ冷めやらぬ人々にとって、突

鳥居信平の胸像を寄贈していただく話も進行中 て袋井市や地元の人々も動き出している。 望外の事に、台湾の「奇美文化基金会」より いずれにしても、このことがきっかけとなっ

ある許文龍氏が会長を務めており、 る許文龍氏が会長を務めており、八田與一な「奇美文化基金会」は、奇美実業の創業者で

顕彰する活動をこれまでにも行ってきた。 ど日本統治時代に台湾民衆に貢献した日本人を 残念ながら、この原稿を書いている正にこの 鳥居鉄也氏の訃報に接することになった。

だきたい。 いう平野久美子氏の著書にて詳細をご一読いた また鳥居信平については、 来春出版予定だと